



Suzuka University
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地 1
TEL. 059-383-8991
<https://www.suzuka-u.ac.jp/>

No.
123

2023.7.31

SUMS News



学友会

令和5年度学友会が始動しました！

【学友会 会長】



令和5年度学友会会長を務めることになりました 放射線技術科学科3年の鈴木陽菜理です。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響により各種制限が設けられていたことで、学友会執行部でも計画した学生交流事業やイベントが中止・延期されることも多く、なかなか思うような活動が進められずに過ごしました。今年度に入り、感染拡大も多少落ち着き制限も解除されるようになり、ようやく学友会活動が再開できる環境が整ってきました。

今年度の学友会は、これまで活動できなかった分も取り戻せるよう「交流促進・学び・楽しさ」をテーマに、今しかない大学生活を彩る様々な取り組みを企画し実施していきたいと考えています。

その一つとして、これまで千代崎キャンパスで実施していた碧鈴祭を、今年度は初めて白子キャンパスで開催するよう計画し、学生の皆さんにはもちろん、保護者や地域の方々など多くの方に楽しんでいただける大学祭にしていきたいと思います。

まだまだ至らない点も多々あると思いますが、学生の皆さんの大学生活がより充実したものとなるように精一杯頑張りますので、1年間よろしくお願いします。

【クラブ・サークル運営委員会 委員長】



この度、クラブ・サークル運営委員会 委員長を務めることになりました 救急救命学科2年の宮崎響己（ラグビー部 部長）です。

新入生の皆さん！ 興味のあるクラブ・サークルを見つけ、楽しく活動ができていますか？ 新しい仲間はできたでしょうか。まだ入部をされていない方は、本学ホームページのクラブ・サークル紹介ページや、各団体で管理しているホームページ・インスタグラムなどのSNSも是非チェックしてみてください。きっと自分に合った団体が見つかると思います。もう入部された方は新しい仲間と共に、活動を全力で楽しみましょう！ 新入生の方だけでなく在学の方でも、楽しい大学生活の一つの思い出になると思いますので、是非クラブ・サークル活動への参加をご検討ください。

今年度は、私が委員長として、各部が安全・安心して取り組める環境作りと、各クラブ・サークルに所属する皆さんが楽しく全力で活動に打ち込んでいけるように、クラブ・サークル運営委員会がしっかりサポートしていきたいと思います。1年間よろしくお願いします。

<学生課>

ボランティアセンター活動報告



附属桜の森病院「ハーブ栽培ボランティア」

6月9日(金)に、附属桜の森病院で「ハーブ栽培ボランティア」を実施しました。

ハーブ栽培ボランティアは、病院にいる患者さんにハーブの育つ様子や、ハーブの香りを楽しんでもらうことを目的としています。

ボランティア当日は学生5名と薬学科の教員が患者さんに向けてハーブの説明をしたり、苗を植える様子を見ていただいたりしました。

学生がハーブをちぎって患者さんに香りを嗅いでもらうと、「いい匂いがする」といった感想や、「私も昔植えていたよ」といった思い出を話してくれました。

これからは学生ボランティアが協力しながら、7月中旬の収穫に向けてハーブの水やりや雑草の管理などを行い、収穫後はハーブティーやポプリとして香りを楽しんでもらいたいと思います。



附属桜の森病院「日光浴・対話ボランティア」

6月22日(木)・29日(木)に、附属桜の森病院で「日光浴・対話ボランティア」を実施しました。

このボランティアは病院で過ごす患者さんと学生の交流を目的に、延べ7名の患者さんと11名の学生が参加しました。

日光浴は天候不良のため残念ながらできませんでしたが、学生は患者さんと一緒に1時間程度お話をさせていただくことができました。最初は緊張していた学生たちも、患者さんとお話をさせていただくとだんだんと笑顔になり、ボランティア終了後には「初めは不安が大きかったが、患者さんと話してみると不安は全て消え、とても楽しい時間でした」といった感想が聞かれました。

今後も附属桜の森病院と協力しながら、ボランティア活動を継続していきたいと思います。



桜の森白子ホーム「音楽コンテンツ放映ボランティア」

6月30日(金)に、大学関連施設である桜の森白子ホームで「音楽コンテンツ放映ボランティア」を行い、8名の学生と3名の教員が参加しました。

ボランティア当日は桜の森白子ホームにスクリーンやプロジェクターを設置し、美空ひばりや坂本九といった懐かしい歌手の音楽を40名程度の入居者の方に楽しんでいただきました。

大きなスクリーンに映し出された懐かしの映像を見ながら、入居者の方が「昔の歌はええなあ」と仰っていたのがとても印象的でした。



令和5年度 第2回「学外清掃活動」

6月30日(金)に、千代崎キャンパス付近と田古知川周辺を重点的に学外清掃活動を行いました。

雨上がりで気温・湿度とも高い中、体調を考慮し40分程度の活動となりましたが、6名の学生が精力的にゴミ拾いを行い、沢山のゴミを拾うことができました。

これから暑い季節になりますが、体調などに十分に配慮したうえで、今後も清掃活動を続け地域の美化に貢献していきたいと思います。



看護学部ボランティアサークル

看護学部 看護学科 准教授 出石 万希子

6月15日(木)に看護学部ボランティアサークル(NVC)の新入生歓迎会を開催しました。

歓迎会は先輩(2~4年生)の企画で、「サークル活動に関するオリエンテーション」、「新入生から先輩への質問コーナー」、「ゲーム」、「ビンゴ大会」など盛りだくさんのスケジュールで実施されました。

今年度は新たに50名の1年生がサークルに加入し大所帯となりましたが、先輩達の温かい歓迎ぶりに会に参加した新入生は先輩との交流を深める良い機会となったようです。

COVID-19感染拡大の影響で一昨年からサークル活動は制限を受け、外部活動はほとんど実施できない状況では

ありましたが、その間、学内でミーティングなどを行いボランティア活動が再開されたときに備えて企画や準備を進めてきました。昨年度の主な活動内容は、桜の森病院や桜の森白子ホームへの贈り物作成です。流木や貝殻などの自然の素材を使用したオブジェや、入院患者様や施設の利用者の方が読書の際に使用できる栞の作成など、サークルの学生達がアイデアを出し合って活動を続けてきました。今年は活動制限が緩和され、徐々に従来の活動が再開していますので、これまでの準備を発揮できると学生達も張り切っています。新入生を迎えてサークル活動もますます活気づくことを願いつつ、顧問一同でサポートしていきます。



セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校と高大連携協定を締結

5月10日(水)にセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校と鈴鹿医療科学大学は、高大連携に関する協定の調印式を行い、セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の原田泰宏校長と本学の豊田長康学長が高大連携協定を締結しました。

これまで以上の強い結び付きのもと、大学は教員の出張講義や生徒を招いた模擬実習などの連携を強化し、医療・福祉・健康分野への理解を深めてもらう取り組みを進めます。

より高い信頼関係を築き緊密に情報共有することで、生徒一人一人の夢の実現の支援へとつなげていきます。

＜入学課＞



セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 上嶋教頭、原田校長、本学 豊田学長、高木副学長 (左から)

看護学部の教員が令和4年度日本看護協会長表彰を受賞

看護学部長 倉田 節子



看護学部看護学科 公衆衛生看護学の谷出早由美准教授が令和4年度日本看護協会長表彰を受賞しました。日本看護協会は、看護職の資格をもつ個人が自主的に加入し運用する、日本最大の看護職能団体であり、「看護の質の向上」「看護職が働き続けられる環境づくり」「看護領域の開発・展開」を中心に活動しています。この日本看護協会長表彰受賞者は三重県内で3名であり、そのひとりが谷出准教授です。

谷出准教授は、本学に着任する前は、三重県で保健師として地域住民の健康増進や保健活動に長年従事されました。さらに、ここ数年の新型コロナウイルス感染症による影響に対し、保健師としての確かな知識と豊富な経験を活かして、三重県が開設した電話相談や保健指導などにも参画してきました。また、本学が拠点となったコロナワクチン接種の際にもリーダー的役割を果たされました。今回の受賞は、それらの功績が称えられたものです。

本学看護学科には保健師を養成する教育課程がありますが、そこで学ぶ学生にとって、谷出准教授の実践知は大きな意味をもつことでしょう。今後も谷出准教授のさらなるご活躍を期待し、看護学科教員一同お祝いを申し上げます。

附属桜の森病院で鍼灸治療がはじまりました

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 王 桂鳳

2021年4月大学附属施設として緩和ケアに特化した「鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院」が白子キャンパス内に開院しました。この病院に入院している患者さんの多くは、がん自体の症状のほかに、がんに伴う痛み、倦怠感などの身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛をかかえています。

2023年4月からは入院患者さんで希望される方を対象に、毎週月曜日午後15時から鍼灸治療を行っています。治療は、本学鍼灸サイエンス学科の教員が担当しています。鍼灸治療は上記の身体的な症状や精神的な苦痛の他に、何らかの理由で薬を使用できない患者さんにも行われています。5月29日までに15名の入院患者さんが鍼灸治療を受けており、患者さんからは、「楽になった」「気持ち良かった」「気分が安らいだ」等の声が寄せられ、患者さんやご家族から大変喜ばれています。



桜の森病院「癒温処(ゆおんどころ)」
鍼灸治療の様子

現在、緩和ケアにおける鍼灸治療の必要性が注目されています。鍼灸サイエンス学科は、これからも桜の森病院での鍼灸治療を通じて、地域医療に貢献していきます。また、学生の病院実習を通じて、緩和ケアを専門とする鍼灸師や鍼灸治療を知る看護師や薬剤師などその他医療職人材の育成に貢献していきます。

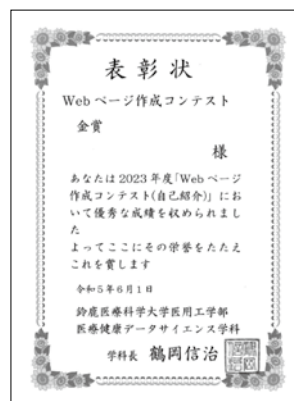
医療健康データサイエンス学科で自己紹介Webページを表彰

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

「Web基礎」（2年前期、必修科目）の授業では、ハイパーテキスト・マークアップ言語（HTML）とスタイルシート（CSS）を学習しています。この授業はインターネットの利用分野の一つであるWebの基礎を学習し、国家試験「情報セキュリティマネジメント」の内容を学習する授業で、今年度から、自己紹介Webページを作成し、コンテストを実施しました。

Webページ作成では、形のない抽象的な概念をコードと結びつけて理解し、完成形をイメージしてコードを構築することが必要です。そのため、新規にWebページを作成するには、何度も試行錯誤しながら、コードを組み立てる必要があります。この作業を体験させると、完成する前に、あきらめる学生が多数出ていました。そこで、このような問題を解決する方法として、今年度はコンテストを試みました。

コンテストは、1位（3点）、2位（2点）、3位（1点）をlearningBOXで投票し、合計点により上位3位までを決定しました。結果は、1位が同点で2名となり、1点差で3位となった学生が1名となり、学科長が全員の前で6月1日（木）に表彰しました。学生に感想を聞くと、「自分で調べながら、楽しく学習することができた。友達の個性を理解できた。自分で作成したイラストを披露する場となった」など好評価の意見を聞くことができました。



コンテストの表彰状

薬学科オンライン新入生歓迎・交流会2023を実施

薬学部 薬学科 教授 西田 圭吾

4月8日（土）に薬学科新入生のオンライン交流会を開催し、70名程の新入生と20名の上級生（2～6年生）が参加しました。

新入生はガイダンスを受けているとはいえ、まだまだ右も左も分からない状態、大学の講義についていけるのか、新しい仲間との人間関係を築いていけるのかなどの不安を感じており、この薬学科オンライン交流会がとても役立ったかと思います。

オンライン交流会では、ブレイクアウトルームを利用し、薬学科の上級生1名あたり新入生4～5名のグループに分かれての交流となり、新入生のなかには、積極的に質問する様子も見受けられました。上級生がカメラを片手に白子キャンパスを紹介するWEBキャンパスツアーでは、施設紹介から空き時間のキャンパス内の施設の利用方法について、上級生が培った経験からのアドバイスが新入生に引き継がれました。また、キャンパスクイズや学校生活Q&Aなど、教員では伝えられない上級生ならではの生きた情報が口伝されました。

新入生は、上級生との交流を通して、薬学科で過ごすキャンパスライフの具体的なイメージができたのではないかと思います。

【救急救命コミュニケーション論】【救急救命家族支援論】初開講！

保健衛生学部 救急救命学科 准教授 久保田 千景

2022年度の救急救命学科の開学科に伴い2023年度2年生に初開講中の【救急救命コミュニケーション論】では、自宅で発症した傷病者を含む家族への対応について、ロールプレイングを行いました。傷病者は高齢で難聴、胸痛の訴えがあり、傷病者も家族もパニックになる状況下で、家族員は救急救命士に対して早く病院に運んで欲しいと訴えるというシナリオでした。学生間で傷病者（患者）役・救急救命士役・家族役を分担し、救急救命士として傷病者への対応、家族の一員（傷病者）の急な発症を受け止められない家族員への対応、家族員同士で支え合う、もめる姿等、



現在同時初開講中の【救急救命家族支援論】での学びも生かしつつ、白熱したロールプレイングとなりました。他にも救急車内・病院の救命救急ICU（集中治療室）におけるロールプレイングの設定もあります。これらの授業科目は、全国の救急救命士養成課程においては本学のみの開講であり、将来救急救命士として、いかなる救急現場でも傷病者を含む家族へのコミュニケーションを通じた支援、そして多職種連携につながる学びとなることを期待しています。Instagramもぜひご覧ください！

松阪メディカルメンバーズ(MMM) 学内展示会が開催されました

社会連携研究センター長 鈴木 宏治

3月15日(水)白子キャンパス6号館にて、松阪メディカルメンバーズ(MMM)学内展示会が開催され、本学の教職員と学生の80名以上が参加しました。

MMMは、松阪市内に本社や事業所を置く6社(岩崎工業株式会社・株式会社オクムラ・株式会社サカキ & Eワイズ・橋本電子工業株式会社・三重化学工業株式会社・三重金属工業株式会社)が新しい医療関連商品や分析機器の開発と販路開拓に向けて、各社が人材・技術・情報面で交流し、必要な医療市場の情報確保、現場ニーズに合わせた商品を開発・検証する企業グループです。

今回の展示会は、MMM主催、本学共催、三十三銀行地域創生株式会社協賛の下に、MMMの持つ商品の展示と本学教職員との交流、新商品の開発に向けた共同研究の立ち上げ等を目的に開催されました。

最初に6101大講義室で、本学豊田長康学長とMMM家根谷 武リーダーの挨拶に続き、MMM各社の企業紹介と商品紹介が行われました。次いで、隣室にて展示した商品・機器を前にその用途や意見交換等が行われました。会場では多数の教員が熱心に企業の方と討議する姿が見受けられ、今後の産学共同研究に発展する期待が強く持たれました。

＜研究振興課＞



食品衛生管理者、食品衛生監視員養成施設の登録を目指して

保健衛生学部 医療栄養学科長 三浦 俊宏

本学の医療栄養学科は管理栄養士を養成することを目的として設立され、毎年40名程の学生を輩出しています。管理栄養士は、病院での傷病者や福祉施設での高齢者への食事提供や調理業務を行うことが多く、食品衛生の知識は極めて重要となっています。

今回新たに国家資格である食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設の申請を行うべく、準備に入っています。食品衛生管理者は、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、業者はその製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないこととなっています。また、食品衛生監視員は全国の主要な海・空港の検疫所において、輸入食品の安全監視および指導、輸入食品等に係る微生物検査と理化学検査、検疫感染症の国内への侵入防止の業務に従事します。これらのことから本学医療栄養学科の学生に食品衛生管理者の資格を取得させることは、食品衛生管理の知識取得のみならず就職先の拡大にも繋がることが期待されます。加えて入学者増にも繋がると考えられます。

京都市教育相談総合センター「こども相談センターパトナ」見学

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 上條 史絵

上條ゼミでは、3月22日(水)、22年度の3年生4名、4年生5名、計9名が参加して「こども相談センターパトナ」を見学しました。京都市は国内でも早期に子ども支援の事業に取り組んでおり、パトナは平成15年に「生徒指導」と「教育相談(カウンセリング)」を統合して開設されました。敷地内には不登校経験者のための「洛風中学校」(教育特区)もあり、センター内の適応指導教室、京都市生徒指導課(センター内)も一体となる総合的支援拠点です。事前にパトナの歴史と共に、国内の不登校やいじめ、自殺の状況、支援の実態などを学びました。心理学を学ぶ者として何を考えて、将来に活かすことができるかを検討しました。

当日、まずガラス張りの大きな建物に圧倒され、吹き抜けのフロアを階上へ進んでいきました。カウンセリングセンターの蜂須賀カウンセラー、適応指導教室「ふれあいの杜」の高保副館長から、資料を基にご講義いただきました。学生たちは積極的に質問をして子どもたちの様子をお聞きし、実践現場のリアルな状況を教えていただきました。見学では利用者の視線にまで配慮した設計や、相談室16室、子どもの状態に応じたプレイルーム8室、大小の教室、並ぶ教材に再び圧倒されながらも、興味深く目を凝らしていました。手づくりの教材も多く、子どもの心に寄り添う温かい環境に学生自身が癒された様子もありました。けれども「子どもたちはずっとここに居たいとは思っていない」という進路選択のお話をお聞きし、厳しくても外へ出ていくという、新しい気づきにもなったようです。先進的環境を肌で学び、職業選択や就労後のビジョンに活用する機会となりました。

＜臨床心理学専攻＞



1年生に向けて3年生学内実習報告会の実施

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 北岡 ひとみ

5月18日(木)コロナ禍で実施を見送ってきた2学年合同学内実習報告会を4年ぶりに再開実施しました。1年「医療人底力実践Ⅰ」学科別授業で、3年生が学内実習で学んだことを1年生にレクチャーしてくれました。2学年が交流し、笑顔や生き生きと話している姿が多くみられ再開することができて本当に良かったと感じています。以下は1年生の感想です。



- 先輩方が1年生の時のエピソードを聞き、モチベーションにとっても繋がりました。私が3年生になったときに、新入生に今の私と同じ気持ちになってもらいたいと思いました。今回重要だと学んだ、解剖学に力を入れて勉強していきます。(安立ゆら)
- MRIの発する磁力を体験しました。MRIに紐で繋がったハサミを近づけると、紐がまっすぐになりハサミは宙に浮きました。こんなに磁力が出ているのかとびっくりしました。先輩方の凄さを実感しました。(伊藤飛輝)
- 先輩方は臨床実習を控えていると仰っていて、そのための言葉遣いの丁寧さにも関心しました。90分で先輩方の努力をいたるところで感じる事ができ、とても良い経験となりました。(小掠晴斗)
- 見たい場所に即座に超音波を当て体の部位の説明をしてもらいました。先輩方は内臓や血管すべての名称を把握しわからない部位にもすぐに答えてくださり、先輩方の知識量に驚かされました。(水野輝人)

2022年度臨床実習報告会（臨床検査学専攻）を開催して

保健衛生学部 臨床検査学科 准教授 福岡 恵子

コロナ混乱の回復兆しが見える中、4月28日(金)千代崎キャンパスにて医療栄養学科 臨床検査学専攻 新4年生の臨床実習報告会を行いました。

報告会では、実習受け入れ施設の技師長や実習責任者の方々を3年ぶりにご招待することができ、Zoomによる参加施設からのコメントはもちろん、対面での実習生に向けたコメントや激励の言葉は、学生にとって実習集大成となる発表の場であるとともに心に響く報告会となり、対面開催の重要性を改めて感じる機会になりました。

実習報告では、聴講していた新3年生からも多くの質問が飛び出し、一つ一つ丁寧に質問に対応する新4年生の姿を見ていると、一回り大きく医療人として成長した様子が窺え、実習準備や手配に奔走した教員にとっては気持ちの良い充実感や達成感を得ることができた報告会であったのではないかと思います。

今年度から臨床検査学専攻は臨床検査学科として再出発、同時に医師の働き方改革に伴う法改正により臨床検査技師の業務範囲拡大、新カリキュラムへの移行と新たなフェーズに突入しました。実習期間の延長や実習内容などにも細則が適用され、臨床実習は新たな段階を迎えようとしています。新学科の門出とともに油断する事なく、更なる臨床実習の充実を目指して邁進していきたいと思っています。

医療ソーシャルワーク実習を実施

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

2023年5月から6月に、三重大学医学部附属病院と済生会松阪総合病院にて医療ソーシャルワーク実習を実施しました。これは、医療福祉学専攻で医療ソーシャルワーカーをめざす4年生が、4年次前期に行っている10日間の実習です。今年度は2名の学生が無事に実習を修了することができました。

特に三重大学医学部附属病院では、地域の総合病院としての機能を、済生会松阪総合病院では急性期病院としての機能を学びました。そして、医療ソーシャルワーカーとして、患者様へ寄り添った支援と多種職連携の実践を学びました。さらに、この実習を通して、学生が自分自身を振り返ることで自己覚知することができ、実習前と比べ大きく成長できたと思います。これから社会人として、地域社会で生きていく学生にとって、とても貴重な機会となったと思います。



この後は、実習を受け入れていただいた実習病院の職員、患者さん、ご家族の方々へ感謝の気持ちを込めて、実習報告会の開催を予定しています。2名の学生が実習前に掲げた各自の実習テーマに従い、今回の実習がどのような意義があったか、実習での学びから医療福祉専門職として支援するということはどういうことかを再考し、自己実現と地域貢献できる医療ソーシャルワーカーをめざしていきます。

＜医療福祉学専攻＞

作業療法学専攻の1期生が卒業

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 島崎 博也

3月10日(金)に本学の卒業式が執り行われ、作業療法学専攻の1期生が卒業しました。本学、作業療法学専攻として初めての卒業生であり、初めての担任であった私にとっても記念すべき日となりました。1期生の皆さんが卒業に至るまでは、大変な道のりの連続でした。一番大きかったのは先輩がいないことによる、先駆者として道標を自分達で作らなければならなかったことです。これらは、大学祭やオープンキャンパスの担当、ボランティア活動など全ての行事が初めてであったことが挙げられます。そして、1期生としての責任や期待などを背負ったプレッシャーが大きかったと思います。そのプレッシャーは、初めて教員として担任を受け持った私自身にも大きくなっていたと思いますが、1期生の就職が100%であったことや、91.7%の学生が国家試験に合格できた際に、ようやく落ち着く事ができました。結果として、4年間でようやく作業療法学専攻の道標を作ることができ、学生と共に成長できた本当に充実した4年間であったと思っています。現在は、私と共に歩んでくれた卒業生に感謝すると共に、作業療法士としてようやくスタートラインに立った卒業生にエールを送りながら、実習地訪問や学会などで会えることを楽しみにしています。



医療人底力実践に参加して医療従事者になる志がより深まりました

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 1年 杉井 亜優



学科プログラムでは、先生だけでなく、実際に病院の先生や障がいを持っている方からお話を聞くことができました。障がいを持った息子さんを持つ方のお話で、親子で作る「人形劇」というものがありました。セリフがなくても、人の動きに合わせて人形を作ることで誰もが参加できるようになっているというものです。人形劇が成功したときはみんなで喜べて、とても素敵な思い出になると仰っていました。また、医療従事者に実際に体を触ってもらうことが大切ということも必要だと教えていただきました。患者さん本人に緊張が伝わらないよう、今のうちにコミュニケーション力を鍛えておくことが重要だと思いました。

体験プログラムでは、他学科と6人グループを組んで、認知症サポーターについての授業を受けました。授業の中で、認知症の高齢者のレジについて、自分ならどう対応していくかということを発表しました。一人一人意見が違って、自分にはなかった考えも知ることができてとても楽しい授業でした。まだ始まったばかりのプログラムですが、多くの意見交換をしていき、広い視野で考えられる医療従事者を目指そうと思います。

この2か月で、医療従事者とは何を必要としていくのかを学ぶことができました。4年後、患者さんに担当してもらって良かったと思ってもらえるような医療従事者になれるよう日々努力していきたいと思っています。

第62回日本生体医工学会大会2023での発表を経験して

医用工学部 臨床工学科 4年 鎌田 亮矢

5月18日(木)～20日(土)に名古屋国際会議場にて第62回日本生体医工学会大会2023が開催されました。本大会は、医療機器あるいはそれを実現する上での基礎技術や基礎原理など幅広い分野を扱っており、私たち医療機器を取り扱う専門職である臨床工学技士を目指している学生にとって非常に関連の深い学会です。

卒業研究では、腹水濾過濃縮再静注法の実用化において使用可能な模擬腹水の作成について研究室の仲間と共に研究を行ってきました。そこで今大会での発表のお話をいただきました。私はこれまでに学会での発表、ましてや参加した経験もなく、最初は自分に発表が努まるのか非常に不安でしたが、先生の後押しもありポスター発表する決意をしました。ポスター作成から臨床工学科准教授の秋田展幸先生また中村太郎先生に指導および適宜アドバイスをいただきながら準備を進め、大会当日は、医師・工学系研究者・養成校教員の方々から研究内容の説明を求められ、また質問や意見をいくついただくことができました。受け答えは、非常に緊張しましたが自分なりに勉強してきた知識をふまえて対応させていただきました。

今回のような学会発表は、学生ではなかなか経験できることではなく、非常に有意義なものとなりました。今後は今回の経験を活かして、臨床工学技士として積極的に学会発表できるよう努力していきたいと思っています。



The students enjoyed singing! “ディズニー映画「アラジン」の主題歌を歌って英語を学び、異文化に触れよう”の会を開催

7月6日(木)白子キャンパスにて、英語学習と異文化理解を目的としたイベントを開催し、4学科から14名の学生に参加していただきました。第1回目の今回は、映画「アラジン」の主題歌「A Whole New World」の歌詞付き動画を鑑賞しながら、「p」や「f」など英語の発音を練習し、アラジンとジャスミンに分かれてコーラスしました。皆さん体をゆらしながら美声で熱唱してくださいました。また、スコットランドやアメリカのお菓子のパッケージの英語に関する早押しクイズで大いに盛り上がりました。学年の異なる学生同士が話す様子も見られ、和やかな会になりました。



参加者の方からは「単純に大声で思いっきり歌えて楽しかったしストレス発散になりました」「海外のお菓子が美味しかった」「本当に思ったよりも楽しすぎました!!」「次も参加したいと思いました!次はタイタニックお願いします!」などの感想や要望が寄せられました。後期にも企画したいと考えていますので、皆さんぜひご参加ください。

＜英語担当教員＞

新任職員のご紹介



大学事務局白子事務部 次長 栗原 通

前職の三重県庁では、条例等の法令審査や指定代理として裁判業務に携わるなど、法令・訟務業務を中心に担当してきましたが、大学事務に携わることは初めての経験です。教員の方や学生の皆様がより一層、研究・教育活動が進むように取り組んでいく所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。



法人事務局 企画広報課 坂倉 早紀

これまでは専門学校にて広報職員として勤務してまいりました。この度、皆様の一員になれたこと大変嬉しく思います。企画・広報業務を通して本学の魅力を最大化するとともに、地域への貢献にも尽力したいと考えております。精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



法人事務局 人事・厚生課 川合 洋平

前職では高等専門学校で人事系、教務系の業務を経験しておりました。これまでの経験を活かし、学生の皆さん、教職員の方々のサポートをしていけるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



法人事務局 経理課 古賀 景子

経理の業務は初めてですが今までの経験を活かして、本学の発展に少しでも貢献できたいと思います。明るく前向きに精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



大学事務局 教務課 佐藤 宗広

けがで車いすになり初めて就職場で非常勤職員として、約4年前から教務課でお世話になっております。今後は正職員として今まで以上に学生へのサポートなど自分にしか出来ないことで貢献できるように精進していきますのでよろしくお願い致します。



大学事務局 教務課 高川 晃吉

前職ではオフィスメーカーで営業職として勤務しておりました。妻の海外転勤で退職し、アメリカで学生生活を送る中、人の成長に携わる仕事がしたいという強い思いが芽生え、大学職員の道を選びました。学生の学びと本学の発展に微力ながら貢献できるように頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



大学事務局白子事務部 白子教務課 山崎 慎也

白子キャンパスの授業や試験に関する業務を担当しております。皆様にご指導いただきながら、前職の三重大学医学部事務職員としての経験も活かし、本学のさらなる発展や学生の学びへの導きに少しでも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2023年度 教育支援の会「総会」開催

6月11日(日)教育支援の会「総会」を千代崎キャンパスにて開催しました。

本会は、大学の創立・建学の精神を体し、校風・伝統の確立と成長を促し、合わせて会員相互の連帯感を強めることを目的とした組織で、在学生の保護者で構成されています。当日は約200人の保護者の方々が出席されました。

今年度役員・委員の紹介後、議題として以下の事項を審議し全て承認されました。

1. 2022年度事業・収支決算報告及び監査報告
2. 2023年度事業計画及び収支予算(案)

また、豊田学長より学生生活全般についての近況説明が行われました。

総会後は、希望者の皆様に「学内見学ツアー」を開催しました。今回は実習施設を中心に医療現場で使用されている最新の画像診断機器や小児リハビリテーション室、CP実習室、図書館を見学していただきました。

「学科別説明会」では、学科・専攻に分かれ、先生方より特色ある教育内容について説明が行われました。ご参加いただいた皆様には関心を強く持っていただけたように感じます。

なお、10月1日(日)には、「保護者懇談会」を予定しております。

今後とも教育支援の会活動へのご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。 <教育支援の会事務局・学生課>

教育支援の会 2022年度収支決算報告書

(自) 2022年4月1日～(至) 2023年3月31日

(単位: 円)

収入	繰越金	前年度繰越金	53,935,533	内 訳		
		前年度未払金	▲ 341,710			
	会費収入	新入生（4年制）	29,720,000		薬学科以外の9学科 620名分	24,800,000
		新入生（6年制）			薬学科82名分	4,920,000
		編入生	20,000		3年次1名	20,000
	利息	利息	171		定期預金利息	171
	合計（A）		83,333,994			

(単位: 円)

	今年度補正後予算				決 算 額	予算－決算		
	科 目	金 額	内 訳	金 額				
支 出	学生生活指導費	学友会行事協力費	3,200,000	新入生歓迎会助成 謝恩会助成	0 3,200,000	0 3,200,000	0 0	
		課外活動助成費	2,000,000	クラブ・サークル活動助成	2,000,000	2,000,000	0	
		大学行事協力費	3,290,000	大学祭助成 大学周辺清掃時飲物代助成	3,290,000 0	3,290,000 0	0 0	
		学生指導補助費	3,164,450	新入生オリエンテーション 学生相談室関連補助	164,450 3,000,000	156,530 3,000,000	7,920 0	
		学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成補助	1,000,000	1,000,000	0	
		実習検査助成費	2,600,000	実習用抗体検査費用助成	2,600,000	2,600,000	0	
		施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	890,340	9,660	
		コロナ対策協力費	2,500,000	コロナ対策助成	2,500,000	2,500,000	0	
		小 計	18,654,450			18,636,870	17,580	
		就職対策補助費	就職対策補助	6,700,000	就職指導関連補助	6,700,000	4,781,918	1,918,082
			小 計	6,700,000		6,700,000	4,781,918	1,918,082
		教育研究補助費		600,000	書籍購入補助	600,000	600,000	0
	小 計		600,000			600,000	0	
	運営費		1,499,623	総会・学科別懇談会諸費用	58,744	58,744	0	
		保護者懇談会諸費用		1,340,879	1,340,879	0		
		役員会諸費用		100,000	86,776	13,224		
		小 計	1,499,623			1,486,399	13,224	
	予備費		1,915,927		1,915,927	582,595	1,333,332	
		小 計	1,915,927			582,595	1,333,332	
		予算額計	29,370,000		決算額合計 (B)	26,087,782	3,282,218	

未払金 (2022年度経費分) ※ (C) 0

2023年度への繰越金 (A)－(B)＋(C) 57,246,212円 (2023年3月31日預金残高)

教育支援の会 2023年度収支予算

(自) 2023年4月1日～(至) 2024年3月31日

(単位: 円)

収入			内 訳		
	繰越金	57,246,212	前年度繰越金	57,246,212	
	現金繰越金	0	前年度未払金		
	会費収入	新入生 (4 年制)	26,940,000	前年度現金繰越金	0
		新入生 (6 年制)		薬学部以外の 10 学科 552 名分	22,080,000
		編入生	100,000	薬学部 81 名分	4,860,000
	利息	171	薬 3 年次 2 名、3 年次 1 名	100,000	
	合計 (A)	84,286,383	定期預金利息	171	

2023年4月1日現在 学生数 2,863名 2023年度予算額目安 28,630,000円 (学生数×10,000円)

(単位: 円)

支出	今年度予算				2022年度実績	備 考
	科 目	金 額	内 訳	金 額		
	学生生活指導費		新入生歓迎会助成	1,000,000	0	歓迎会・クラブ紹介・パンフレット等作成
		学友会行事協力費	4,200,000	謝恩会助成	3,200,000	謝恩会
		課外活動助成費	3,000,000	クラブ・サークル活動助成	3,000,000	活動支援
		大学行事協力費	3,330,000	大学祭助成	3,290,000	大学祭助成
		学生指導補助費	大学周辺清掃助成	40,000	0	年2回実施
			新入生オリエンテーション助成	200,000	156,530	新入生へのメッセージ冊子配布
		学生生活広報費	1,000,000	学生相談室関連助成	3,000,000	学生相談室における学生への対応の充実
		実習検査助成費	2,600,000	大学広報費作成助成	1,000,000	広報誌の制作・郵送
		施設設備充実費	900,000	実習用抗体検査費用助成	2,600,000	抗体検査助成
		コロナ対策協力費	0	設備・備品助成	900,000	寄贈備品
			コロナ対策助成	0	2,500,000	協力金
	就職対策補助費	就職対策補助費	6,700,000	就職指導関連助成	6,700,000	ガイダンス・講座・説明会等の支援
	教育研究補助費	教育研究補助費	600,000	書籍購入助成	600,000	学生図書購入助成
	運営費	2,480,000	総会・学科別説明会諸費用	700,000	58,744	総会・学科別説明会開催(6月11日)
			保護者個別懇談会諸費用	1,600,000	1,340,879	保護者個別懇談会開催(10月1日)
			役員会諸費用	180,000	86,776	役員会開催(2月4日)、等
	予備費	予備費	620,000	予備費用	620,000	学生の学会での発表に関する交通費等助成、クラブの全国レベルの大会出場助成、学生への香典、消耗品等、予算項目外の支出に対応。
合計			予算額計 (B)	28,630,000	26,087,782	

次年度繰越予定金額 (A)－(B) 55,656,383円

学校法人鈴鹿医療科学大学 令和4年度決算報告

●資金収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
学生生徒等納付金収入	4,530,118,600	人件費支出	3,220,307,736
手数料収入	68,210,492	教育研究経費支出	1,406,937,947
寄付金収入	20,657,730	管理経費支出	343,211,790
補助金収入	708,042,340	借入金等利息支出	24,407,550
資産売却収入	801,440,402	借入金等返済支出	281,640,000
付随事業・収益事業収入	489,428,568	施設関係支出	168,533,636
受取利息・配当金収入	94,266,086	設備関係支出	169,518,547
雑収入	185,623,729	資産運用支出	634,960,841
借入金等収入	0	その他の支出	705,574,435
前受金収入	774,517,420	資金支出調整勘定	△ 302,297,146
その他の収入	186,171,999	翌年度繰越支払資金	3,776,947,047
資金収入調整勘定	△ 1,043,325,017	支出の部合計	10,429,742,383
前年度繰越支払資金	3,614,590,034		
収入の部合計	10,429,742,383		

【資金収支計算書・活動区分資金収支計算書の概要】

資金収支計算書は、会計年度中に行われた資金の動きを表したもので、活動区分資金収支計算書は、その資金の動きを活動区分ごとに集計したものです。

令和4年4月白子キャンパスに開設した保健衛生学部救急救命学科の収入と支出が計上されるようになりました。

●活動区分資金収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
教育活動資金収入計	5,979,014,459
教育活動資金支出計	4,970,457,473
差引	1,008,556,986
調整勘定等	△ 121,514,024
教育活動資金収支差額	887,042,962
科 目	金額
施設整備等活動資金収入計	23,067,000
施設整備等活動資金支出計	338,052,183
差引	△ 314,985,183
調整勘定等	△ 185,064,037
施設整備等活動資金収支差額	△ 500,049,220
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	386,993,742
科 目	金額
その他の活動資金収入計	895,706,488
その他の活動資金支出計	1,120,343,217
差引	△ 224,636,729
調整勘定等	0
その他の活動資金収支差額	△ 224,636,729
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	162,357,013
前年度繰越支払資金	3,614,590,034
翌年度繰越支払資金	3,776,947,047

●事業活動収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
学生生徒等納付金	4,530,118,600
手数料	68,210,492
寄付金	20,657,730
経常費等補助金	684,975,340
付随事業収入	489,428,568
雑収入	185,623,729
教育活動収入計	5,979,014,459
科 目	金額
人件費	3,265,002,354
教育研究経費	2,189,500,237
管理経費	412,351,326
徴収不能額等	0
教育活動支出計	5,866,853,917
教育活動収支差額	112,160,542
科 目	金額
受取利息・配当金	94,266,086
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	94,266,086
科 目	金額
借入金等利息	24,407,550
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	24,407,550
教育活動収支差額	69,858,536
経常収支差額	182,019,078

●貸借対照表 令和5年3月31日現在

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	17,298,353,077	17,805,783,333	△ 507,430,256
有形固定資産	16,978,797,740	17,482,460,198	△ 503,662,458
特定資産	300,000,000	300,000,000	0
その他の固定資産	19,555,337	23,323,135	△ 3,767,798
流動資産	5,404,129,348	5,450,355,765	△ 46,226,417
資産の部 合計	22,702,482,425	23,256,139,098	△ 553,656,673
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,087,813,183	3,278,118,565	△ 190,305,382
流動負債	1,450,157,325	1,824,562,496	△ 374,405,171
負債の部 合計	4,537,970,508	5,102,681,061	△ 564,710,553
科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金	26,696,956,936	26,530,674,619	166,282,317
繰越収支差額	△ 8,532,445,019	△ 8,377,216,582	△ 155,228,437
純資産の部 合計	18,164,511,917	18,153,458,037	11,053,880
負債及び純資産の部 合計	22,702,482,425	23,256,139,098	△ 553,656,673

●財産目録 令和5年3月31日現在

(単位：円)

資産総額	22,702,482,425
基本財産	16,998,353,077
運用財産	5,704,129,348
負債総額	4,537,970,508
正味財産	18,164,511,917

【貸借対照表と財産目録の概要】

貸借対照表は、資産や負債の状況を表すもので、財産目録はその内訳を表すものです。

当年度は、白子キャンパス2号館改修工事、図書館・東洋医学研究所空調工事や、各学科の施設改修・備品の新規取得を行いました。また、既存資産の減価償却の進行により総資産額は減少しています。また、総負債額は、借入金の返済により減少しています。その結果、正味財産（総資産－総負債）は、0.1億円増加しています。

学生相談室通信

学生相談室 カウンセラー 半野 杏果

皆さん、はじめまして。千代崎キャンパス学生相談室で勤務しております、カウンセラーの半野です。最近、とても暑い日が続いていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？暑くてジメジメしていると、「講義や課題など集中できない」「食欲が無くなってしまう」といった方も多いのではないのでしょうか？私も、毎年どのように夏を乗り越えてきたのか思い返すほど、日々暑さと戦いながら過ごしています。

今日はそんな暑い日乗り越えるために、すぐに食べられる食材を一つ紹介したいと思います。夏は暑さで体力が奪われ、エアコンの温度差などから体調を崩しやすくなってしまいます。そんな時に私がよく食べているのが、梅干しです。梅干しは夏バテ対策になるといわれています。白湯に溶かしたり、お茶漬けに乗せてみたり、冷やしたうどんなどにも相性が良いので、夏バテして食欲が無い時や、憂鬱な気持ちを切り替える食材として、ピッタリだと思います。皆さんもよろしかったらどうぞお試しください。

最後に、学生相談室について少しお話させていただきます。学生相談室は本学の学生であれば誰でも利用できます。「少し話を聞いてほしい」といった内容でも大丈夫です。少しでも大学生活が過ごしやすくなるように一緒に考えていきましょう。「相談しに行く内容じゃないかもしれないけど大丈夫かな？」といった場合でも、学生相談室を気軽に利用していただけたら嬉しいです。最後まで読んでいただきありがとうございました。



「温暖化に向けた未来人体型」

最近、全国的にクマ出没のニュースが多い。温泉地や市街地にまで出没し、襲われて負傷した人も出ている。北海道では釣り人が襲われ、餌食になってしまったという痛ましい事故もあった。北海道のヒグマは、本州のツキノワグマに比べて体長で1.5倍、体重で4倍くらい大きいから、それだけ危険も大きい。

何でヒグマのほうが大きいのかって？ そりゃあ、広々とした北海道で育てば大きくなるでしょ。おじさんの北海道の友達も大きいよ。食べ物も美味しいしね。そんないい加減なこと言ってもらっちゃあ、クマっちゃうな。動物は北へ行くほど大きくなるっていう話、聞いたことないの？ 熱帯にいるマレーグマは体長100-140cmと小型だけど、日本からアジアの温帯に生息するツキノワグマは130-200cm、亜寒帯に生息するヒグマは150-300cm、寒帯に住むホッキョクグマは200-300cm。熱帯地方から北へ行くほど、大きいんだよ。

哺乳類のように外気温が変わっても体温が変わらない恒温動物は、同種か近縁種の場合、寒い地域に生息するものほど体が大きい。これを「ベルグマンの法則」って言うらしい。そう言えば、シカでもトラでも、北へ行くほど、つまり、寒い地域へ行くほど、体が大きいよね。そんなこと知らないとシカられますよ。1本トラれた。インドネシアのスマトラトラとシベリアのアムールトラでは大きさが倍くらい違うんじゃない？ なぜかって？ 詳しく知りたい人は自分で調べるマン。

簡単に言うと、恒温動物は、常に体温を一定に保つために、体内で常に熱を生産し、また、体表面からは熱を放出している。体内での熱生産量はほぼ体積（体重）に比例し、放熱量もほぼ体表面積に比例している。温暖な地域では体温を維持するためには放熱を十分に行う必要があるから体重当たりの体表面積は大きくなければならず、小さいほうが適している。逆に寒冷な地域では放熱は簡単で、むしろ体温を維持するためには放熱を抑える必要があり、そのためには大型であることが有利となる。「簡単に言う」って言うておきながら、分かったような、分からないような……。要するに、熱生産と熱放出の関係で、寒冷地域では体が大きいほうが有利で、温暖地域では小さいほうが有利ということじゃね。ベルグマン、何となくだけど、分かるマン。

人間も同じかな？ そう言えば、熱帯地方の人は確かに小さい。それに比べて、北欧など寒い国の人は大柄な人が多いよね。人間の場合は、道具や火を利用したり、環境を変えたりすることが出来ちゃうから、北極圏に住むイヌイットの人が小さいことなど例外があるらしい。でも、原則オッケーでしょ。北国育ちのオヘタニさんも大きいしね。おじさんは、どうかって？ おじさんは「地球温暖化」に向けた未来人だね。それって、背が低いってこと？「……」

中国 石家荘医学高等専門学校の来訪と国際交流協定締結

国際交流センター長 永坂 哲

本学は、本年7月10日(月)～7月14日(金)にかけて、中国河北省所在の石家荘医学高等専門学校(Shijiazhuang Medical College (以下SMC))より、国際交流の一環として同校国際教育学院院長の魏海青教授を団長とする10名(教職員3名・学生7名)の研修訪問団を歓迎しました。

1887年創立のSMCは、臨床医学部、看護学部、歯学部、薬学部、伝統中国医学部、医療技術部の6つの学部で約2万人の全日制学生が学ぶ3年制の私立医療系高等教育機関ですが、本学との類似点が多いことや同校出身者が既に本学で教員として活躍中であることもあって、SMCは本学を同校卒業生の将来の留学先として希望検討中の経緯からこの度の来訪となったものです。

5日間の滞在中のご一行が、本学高木理事長/豊田学長宛表敬訪問・歓送迎会・諸学科授業参観と実習参加・病院および関連医療施設見学・日本文化体験(茶道・華道・日本食等)・交流協定締結協議と署名式・中国駐名古屋総領事館を交えた三者オンライン挨拶交換会等を含む極めて密度の濃い有意義なスケジュールをこなしてくれたことにより、両校にとってコロナ禍後初となったこの度の対面国際交流が実りあるものとなりました。

特にこの度の交流成果の象徴と言えるのが、本学にて署名式の挙行に至った両校間の国際交流協定締結でした。これを機に、今後期待される両校間の友好・交流関係の発展が、お互いの機関における教育・研究の国際性向上に寄与することを願っております。



行事予定

2023年8月～11月

8月1日(火)～4日(金)前期・夏期定期試験と解説
 6日(日) オープンキャンパス(第4回)
 7日(月) 夏季休業(～9月7日)
 10日(木)～20日(日)夏季一斉休暇
 24日(木)～25日(金)・28日(月)～30日(水)
 前期・夏期 追・再試験
 9月1日(金) FD・SD講演会
 2日(土) オープンキャンパス(第5回)
 7日(木) 後期ガイダンス
 8日(金) 後期・秋期 授業開始
 16日(土) 総合型選抜(1期)
 18日(月・祝) 月曜授業日
 23日(土・祝) 大学院1期入試
 10月7日(土) 補講日
 9日(月・祝) 総合型選抜(2期)・編入学試験第1回

10月21日(土) 補講日
 31日(火)～11月2日(木) 秋期定期試験と解説
 11月3日(金・祝) 金曜授業日
 4日(土) 補講日
 6日(月) 秋期定期試験と解説
 10日(金) 大学祭準備(休講)
 11日(土)～12日(日) 大学祭(白子キャンパスにて)
 13日(月) 大学祭片付け(休講)
 16日(木) 学校推薦型選抜(推薦・指定校制)
 千代崎:休講 白子:補講日
 17日(金) 学校推薦型選抜
 (公募推薦・総合型選抜(3期))
 千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
 23日(木・祝) 木曜授業日
 25日(土) 秋期追・再試験

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。